

国語科

間接指導や 少人数の学習指導の工夫



【実践例】

第3学年 「修飾語を使って書こう」

第4学年 「ごんぎつね」

全校モジュール学習 「音読の時間」

これまでの実践から感じている課題

間接指導時に、児童が自分で学習を進めるための手立てが十分でないため、児童が教師の指示を待つ時間がある。

少人数のため、多様な考えに触れる機会が少なく、自分の考えを広げたり深めたりすることが難しい。

児童が自信をもって自分の考えを伝えたり、表現したりする活動が少なく、他の児童の考えにも触れにくい。

目指す姿

「思いを豊かに表現し、主体的に活動する児童」の育成

児童一人一人が、学習に対する意欲をもち、自ら学び、考え、表現する力を身に付けることができる。

間接指導や少人数の学習指導を充実させるために

① ICTを使った学習指示 (第3学年1名)

第3学年「修飾語を使って書こう」

② 共有ノート (※①) を用いての学習 (第4学年4名)

第4学年「ごんぎつね」の学習を通して

③ モジュール学習 (※②) での音読活動 (全校児童12名)

(※①) ▶ 協働学習アプリ (ロイロノート) で、複数人の児童が同時にノートを編集できる機能。

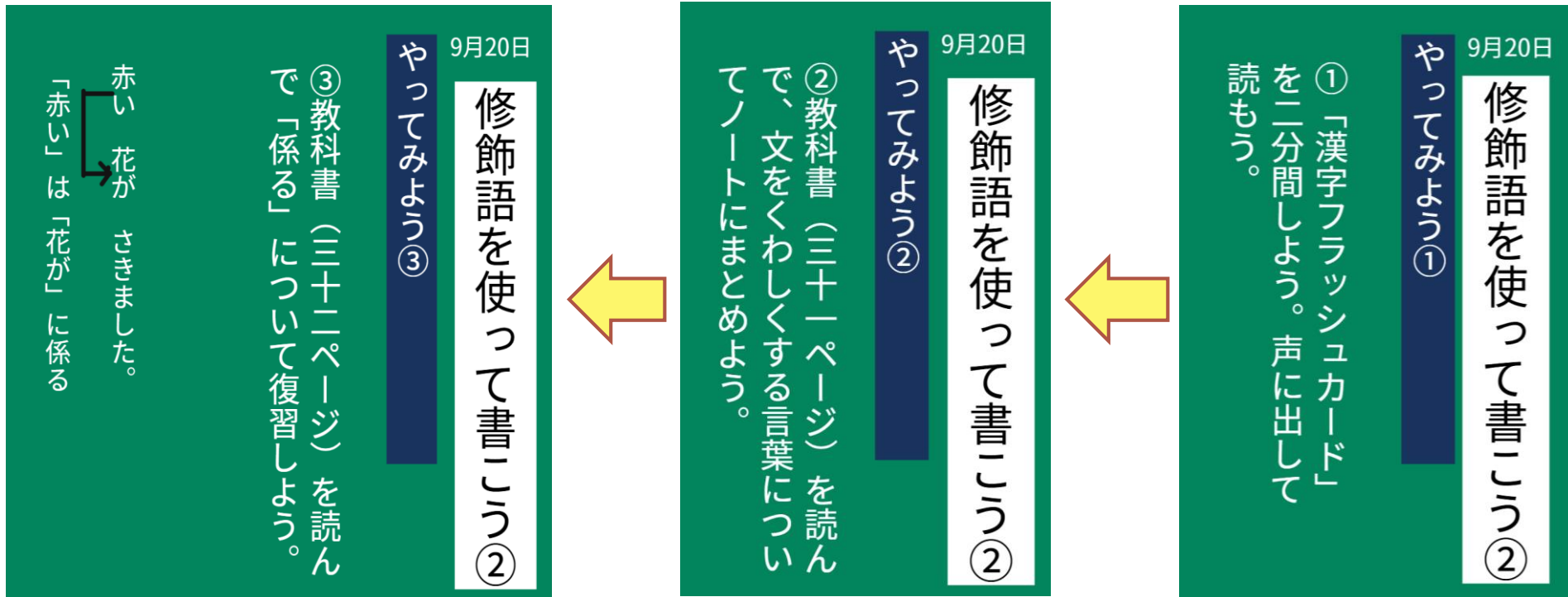
(※②) ▶ 10分や15分など短い時間で学習に取り組む学習形態。



① ICTを使った学習指示【間接指導時】

手立て

協働学習アプリ（ロイロノート）を使用し、間接指導時に児童が何を学習するのかについて流れを視覚的に示すことで、教師が直接指示をしなくても児童一人一人が見通しをもって学習に取り組めるようにする。



日付、単元名、活動内容順を書く。

間接指導時に児童が学習する流れを示したカード（ロイロノートより）

学習の流れの slides を作成する。

成果

間接指導時に、児童が学習の流れを確認し、教師の指示を待たなくても自分でスムーズに学習を進めることができるようになった。

② 共有ノートを用いての学習 間接指導 その1

- 協働学習アプリ（ロイロノート）の共有ノートを用いることにより、間接指導時に、友達の考えを閲覧し、参考にしながら学習を進めることができるようにする。

4人の考えを一度に閲覧することができる。

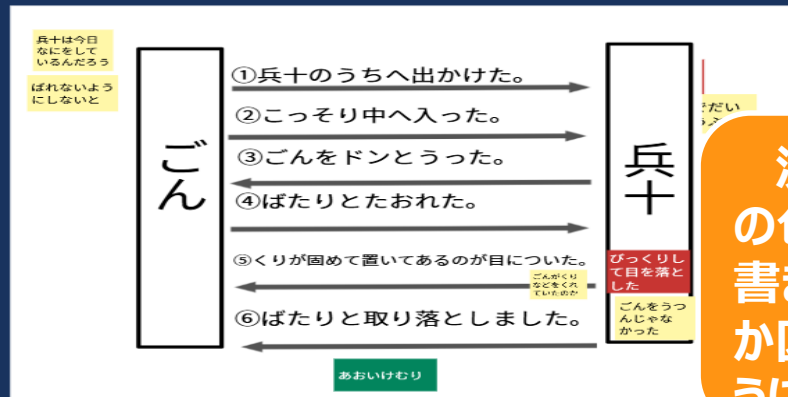
手立て

個から全体での学習へ……。(スライド6へ続く)

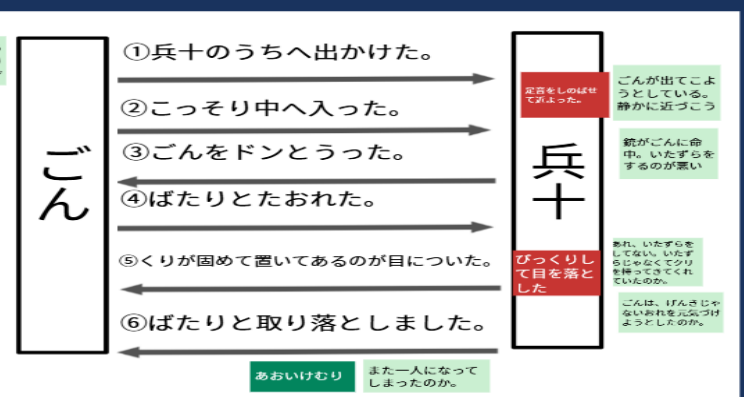
個々で学習

決まった自分の色の付箋に書き、誰の考えが区別できるようにする。

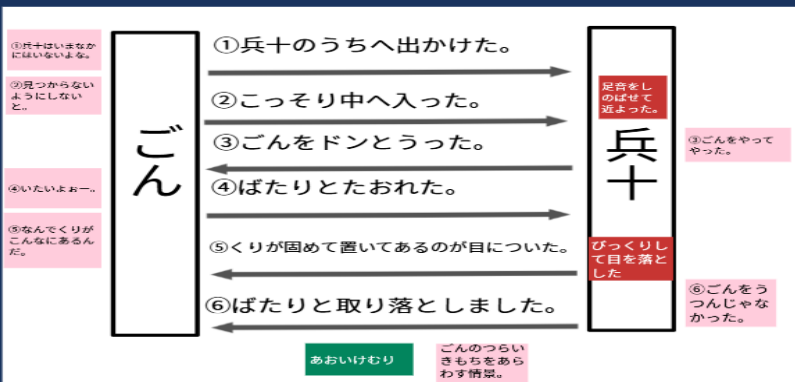
Aさん



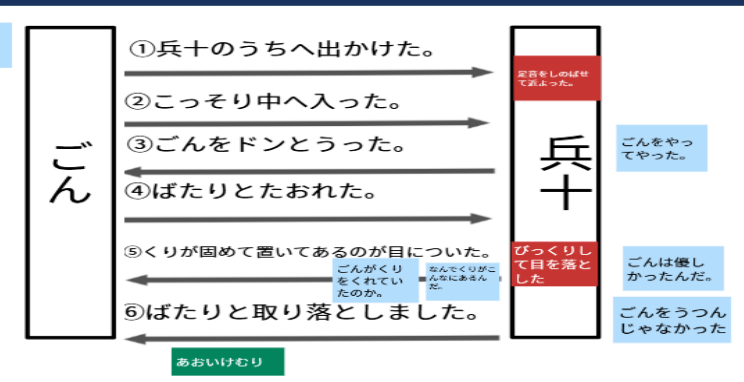
Bさん



Cさん



Dさん



友達の考えや学習の進め方をヒントにし合いながら、停滞することなく取り組めた！

② 共有ノートを用いての学習 間接指導 その2

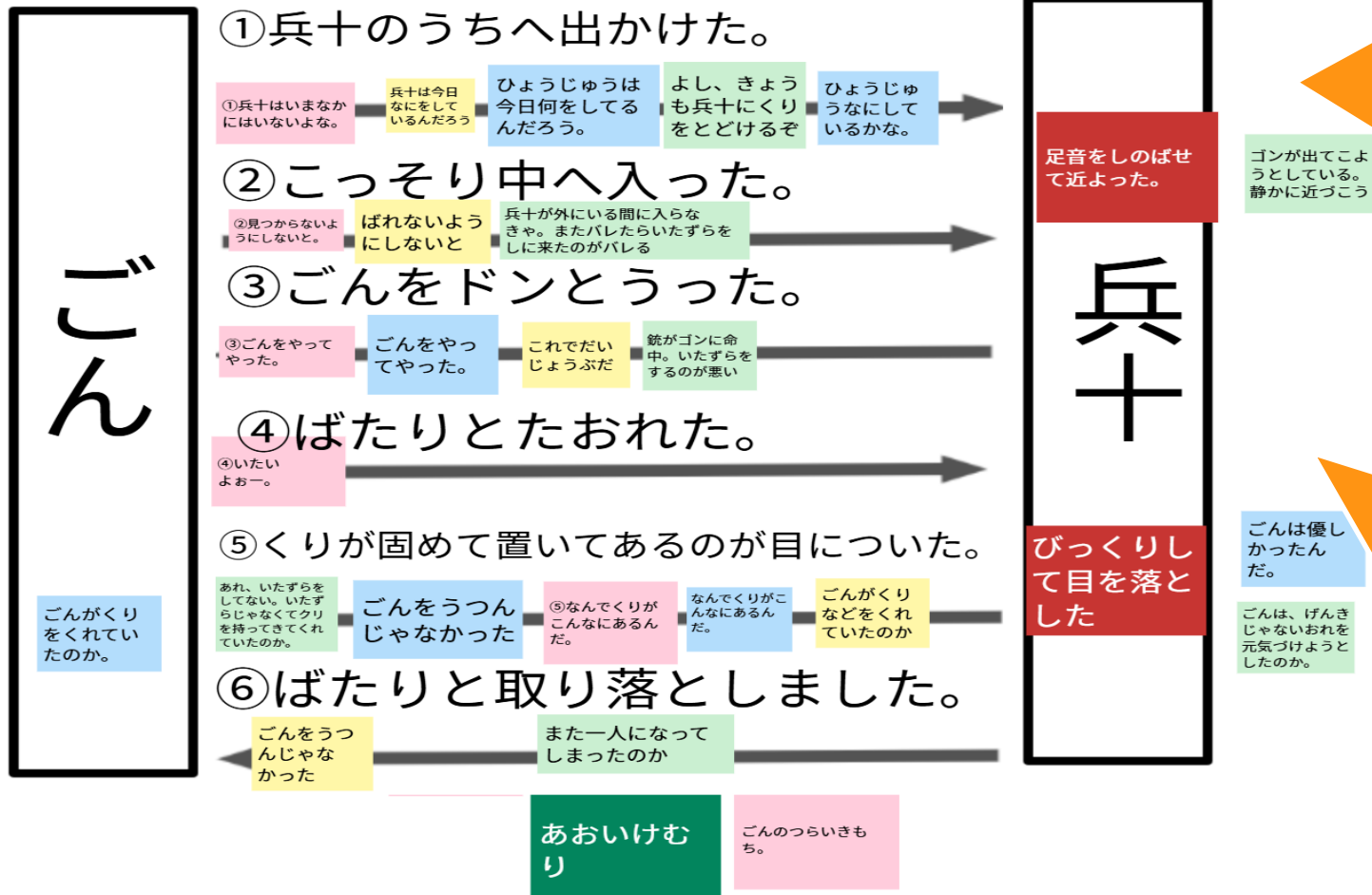
手立て

○ みんなの考えを一つのシートにまとめ、話し合うことにより、互いの意見の共通点や相違点にも気付くことができるようにする。

全体で共有

成果

- 間接指導時に、友達のシートを参考にしながら個々の学習を進めるとともに、一つのシートにまとめて話し合う活動を行うことで、児童は自分たちの力で考えを広げたり深めたりすることができた。
- 付箋の色分けをすることで、直接指導時に教師が児童一人一人の考えを把握しやすく、個別への声掛けや全体指導にも生かすことができた。



みんなの考えを一つのシートにまとめ、視覚的に分かりやすくする。

児童は自分で該当する場所に付箋を動かしながら意見とその理由を発表する。

③ モジュール学習での音読活動（全校）

実態

- 普段は少人数での学習のため、大きな声で表現する機会が少ない。
- 児童が全てを話さなくても周囲が分かってくれることが多い。

課題

- 少人数のため、普段の授業では大きな声でなくても相手に伝わるため、場面に応じて大きな声で表現する習慣が身に付いていない。
- 他校との交流の中で（相手が変わると）、自信をもって自分の考えや思いを伝えることが苦手な児童が多い。

目的

- 音読を通して自信をもって大きな声で表現する力を身に付けさせる。
- 全校で音読をすることで、声を合わせて読むことの楽しさを感じさせる。



全校で共通の課題について話し合い、
学校全体で共通理解を図って取り組みま
した！



③ モジュール学習での音読活動（全校）

手立て

朝から大きな声を出すことで気持ちよく一日をスタートできる。

全校で取り組むことで音読の方法のバリエーションが増える。

成果

- ① 朝のモジュール学習において、全校で音読を行う。
- ② 大きな声で音読をするポイントを伝える。
(息をしっかりと吸う、口形を意識させる。)
- ③ いろいろな音読の方法を取り入れる。
(一人で読む、みんなで読む、交替で読む、数文字かぶせて追って読む、好きな部分を読む 等)
- ④ 異学年で3～4人のグループをつかって音読をする。
(低、中、高学年でバランスよくグループをつくる。)
- ⑤ 相手意識をもって音読をする。
- ⑥ 練習して暗唱テストを受ける。
(中休みに校長先生に聞いてもらい、合格したらシールをもらう。)

【今年度取り組んだもの】
★じゅげむ（落語）
★早口言葉
★こだまでしょうか（詩）
★なるほどじいさん（詩）
★たまごがさきか（詩）

- 自信をもって大きな声で音読（表現）できる児童が増えた。
- 学校生活の様々な場面において、積極的に自分の考えを伝えようとする児童が育っている。（例：他校との交流の場面で発言する児童が増えた。）

まとめ

間接指導や少人数の学習指導の工夫

① ICTを使った学習指示（第3学年）

- 学習の流れを視覚的に示すことにより、児童自身で学習の流れを確認し、安心して学習に取り組むことができ、自ら学び、考えるようになった。

② 共有ノートを用いての学習（第4学年）

- 協働学習アプリ（ロイロノート）の共有ノートを用いることで、友達の考えを参考にしながら自分の考えを広げたり深めたりして、学習に取り組むことができた。

③ モジュール学習での音読活動（全校）

- 全校での音読の取組みにより、場面に応じて大きな声で表現できる児童が増え、積極的に自分の考えを伝えようとする態度が育っている。

一人一人の児童が、自ら学び、考え、表現する力を身に付けることができた。